

令和2年度 常葉大学教育学部附属橘小学校 学校評価書

本校の学校評価の項目

- 1 経営の重点（重点目標）に関すること
- 2 指導部に関すること
- 3 組織・運営に関すること
- 4 特色ある教育に関すること

1 経営の重点（重点目標）に関すること（児童の姿） 5：大変よくできた 4：よくできた 3：できた 2：あまりできなかった 1：大変できなかった

生きる力を互いに高めあう児童の育成～三方よしの実践を通して～		自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見
重点目標	<p>☆ 確かな学力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能を身に付けた児童 ・思考力・判断力・表現力等の能力を付けた児童 ・主体的に学習に取り組む態度が身に付いた児童 <p>【学校説明】 休校中は学びをとめないようプリント学習やオンライン授業で学習環境の確保はでき、子供たちも前向きに取り組むことができた。学校再開後も意欲的な取り組みによって、概ね学力も定着しているが、交流活動や体験活動は一部制限しなければならなかった。コロナ禍のため協働的な学びについての取り組みが十分でなかったため、昨年度課題とされた思考力、判断力について追究ができなかった。</p> <p>【次年度の改善策】 コロナの状況を見ながら、話し合いによる学びを取り入れていきたい。また、ギガスクール構想における端末が整った学年では、新たな話し合いのスタイルとしてipadを使用した話し合いの形も構築していきたい。基礎的な学力については、普段の授業や家庭学習なども含め個別指導と集団学習のバランスを考えながら進めていきたい。交流する活動を少しずつ元に戻していく中で、思考・判断・表現できる場の設定を授業に位置づけていきたい。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント学習やオンライン授業を取り入れざるを得ない状況の中、子供たちが前向きに取り組むことができたことは大きく評価できる。交流活動や体験活動の制限により、評価は3とせざるを得ないが、先生方の取り組みは5と捉えている。 ・オンライン授業を行ったり、8月にも学校を開いたりするなど、コロナ対策と学力向上の両立を図ることができていると思われる。 ・コロナ禍の中でもいち早くオンライン授業を取り入れることができていた。 ・制限される状況で工夫して取り組んでいる。 ・休校中も工夫して学習環境の整備に努めた点は評価できる。 ・昨年度の改善点とされていた思考力、判断力の評価はどうか。
	<p>☆ たくましい心身</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身に付けた児童 ・体力の向上を図り、健康で安全な生活ができる児童 <p>【学校説明】 コロナ禍で戸外で遊ぶことが少なかった。偏食する子がまだいる。身体だけでなく心もたくましくしたい。</p> <p>【次年度の改善策】 ・コロナの状況を見ながら、話し合いによる学びを取り入れていきたい。 ・コロナ禍が続いたとしても子どもが外や講堂で遊べる時間を確保して、体力向上につなげる。 ・折を見て、家庭でもできる運動を学校から紹介する。 ・偏食や食べ残しについては、学級や学年間で対応の差が出過ぎないように共通理解をして指導していく。 ・体だけでなく、心もたくましく成長できることを視野に入れた指導を行う。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、戸外で十分に活動できず2が通常と思われる環境の中、自己評価で3をキープしていることは、先生方の取り組みの成果と考える。 ・コロナ禍の中、子供たちが元気に生活できたことは評価したい。 ・登校日数が少なく外でも遊べない日が多かった。 ・コロナ禍で仕方ない面もある。
	<p>☆ 豊かな心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の身になって考え・行動できる児童 ・協力して温かな人間関係を作ることのできる児童 ・感動する心をもった児童 <p>【学校説明】 自分の価値観だけで判断してしまい、相手の立場や考えを思いやった言動ができず子ども同士のトラブルが多かった。</p> <p>【次年度の改善策】 自分の価値観だけで判断せずに、相手の立場や考えを思いやった言動ができるよう、道徳の授業とも連携しながら指導を行う。コロナ禍であっても児童が安心して学校生活が送れるように、児童の心に寄り添いながら新しい生活様式における「三方よし」のあり方も学校全体で考え深めていきたい。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、子供たちのストレスや心のありようにも細やかに対応し、「コロナに負けない豊かな心」の育成をさらに期待したい。 ・「三方よし」の考え方が、豊かな心の育成のための基盤になっていると思う。

2 各指導部に関すること（児童の姿）

生徒指導の目標 「自分よし」「相手よし」「みんなよし」の「三方よし精神」で活動する子の育成	自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
<p>☆ 学習指導 学びの基本をしっかりと身に付ける。「聴いて・話して・つなげよう」 ・必要な内容を正しくききとる、伝える、つなげる。（ビンゴの活用） ・学習態度の基本を押さえる。（場に応じた声の大きさ、授業準備など） ・学力差をなくす。（基礎基本を身に付ける小テスト、個別指導など） ・家庭学習を習慣づける。</p> <p>【学校説明】 ふり返りカード（学習態度ビンゴ）への取り組みによって、学びの姿勢を意識できる児童が増えたことは成果である。交流活動の制限やマスクの影響などもあり、声の大きさに課題が出た。また、文字を書くなどいろいろな取り組み姿勢に課題を感じた学年もあった。</p> <p>【次年度の改善策】 学びに向かう姿勢として、普段から目標を意識できて振り返りのできるものを継続使用したい。また、コロナの状況を見ながら話す・つなげるといった取り組みを授業に位置づけていきたい。同時に話し方や書き方に関するスキルも高められるよう、普段の指導部の中で意見を交流していく。</p>	3	3	<p>・学びの姿勢を意識できる児童が増えていると、成果が自己評価であげられている。今後、この児童の層がさらに増え、評価が向上することを期待したい。 ・コロナへの感染対策をしながらも学習指導に重点を置いた種々の取組はおおきに評価できる。 ・学習に対する意欲や姿勢が育っていると思われる。</p>
<p>☆ 図書館指導 学校図書館への期待感をもたせ、良い図書館利用者の基礎を育てる。 「行きたい図書館、使える図書館」「つながる読書、つなげる読書」 ・本を読むことの楽しさを知り読書を習慣化する。 ・図書館情報を活用し、自分の課題や疑問を解決する力を身に付ける。</p> <p>【学校説明】 休校中も含め、子供たちが本とつながることができるようにイベントやおたよりなどを通して発信を続けたことが成果としてあげられる。また、密にならないような図書館利用についても取り組んできた。本の管理も本年度より電子化できたことも成果である。</p> <p>【次年度の改善策】 引き続き、現在司書教諭が取り組んでいるイベントを継続する。また、図書委員会による紹介や有志によるビブリオバトルなど本に対してさらに興味をわくような取り組みも継続していく。</p>	4	4	<p>・休校中も図書館からの発信を続け、成果をあげている。コロナ禍、本や図書館が、学びや心の支えになった子供も多かったと推察される。有難い取り組みだ。 ・過去の訪問等から図書館指導が充実していることを確認できた。システムの電子化も図られ、ますますよいものになっていくことが期待できる。 ・読書に関する情報発信を継続したことは評価できる。児童による推薦図書紹介を行っていただければ導入してみようか。</p>
<p>☆ 生活指導 基本的な生活習慣が当たり前にできる。 ・笑顔（橋スマイル）で挨拶する。 ・校内では静かに歩く。 ・黙って集合、黙って解散する。 ・校内美化に努める。 ・丁寧な言葉遣いができる。</p> <p>【学校説明】 学年に応じた挨拶の仕方がまだできない。</p> <p>【次年度の改善策】 「めざす子ども像」で示した各学年の目標に向け取り組んでいく。例えばあいさつでは、笑顔で、明るい声で、相手の目を見て、そして、挨拶に一言付け加える等、学年に応じて指導していきたい。</p>	3	3	<p>・学校説明では、学年に応じた挨拶に課題があるとされている。今年度は、学校に伺い具体を拝見していないが、昨年度までの参観の様子から、外部訪問者への挨拶はよくできていたように思う。「できない」が友達同士のことであるならば、特別活動等との連携強化が必要と思われる。 ・挨拶指導で何か工夫していることはあるか。</p>
<p>☆ 交通安全・防災指導 どこにいても自分の身は自分で守れるように行動できる態度と能力を身に付ける。 ・交通安全指導員の協力の下、交通安全教室を実施する。 ・スクールバス、JR、徒歩、送迎による登下校の指導を行う。 ・火災、地震の避難訓練を行い災害時に備える。 ・不審者対応訓練及びそれに関する研修を行う。</p> <p>【学校説明】 静岡県中央警察署とコンタクトを取り、2回不審者対応訓練を子供たちに指導してもらったことができた。</p> <p>【次年度の改善策】 防災担当は、実際に地震や火事が起きた場合のようなことが起きるかの事例を事前指導で行い、本番を意識した訓練にする。防犯担当は、静岡県中央警察署とコンタクトを取りながら効果的な訓練ができるように工夫を加える。</p>	4	4	<p>・具体を拝見していないが、今年度はコロナ禍、自分の命や健康に対する子供たちの意識は高かったと推察。同様に先生方の意識レベルも高く、有用な指導がなされたものと思う。 ・中央警察署と連絡を取りながら、年2回も安全指導を行っていることはすばらしい。</p>
<p>☆ 給食指導 ・食事に关する望ましい習慣を身に付ける。 ・会食をして望ましいマナーを身に付ける。 ・食事や栄養について正しい理解を深める。</p> <p>【学校説明】 コロナ禍で給食は全員前を向いて黙って食べるよう指導しなければならなかった。食べ物の好き嫌い、偏食が目立ってきている。</p> <p>【次年度の改善策】 食べ物の好き嫌い、偏食について、家庭でも連携をとりながら少しずつでも改善できるように指導する。コロナの状況を見ながら楽しい給食になるようにしていきたい。</p>	3	3	<p>・コロナ禍、「安全な食事」が優先され、「楽しい食事」は難しかった。偏食等の問題が出ることも当然の状況であるが、給食時間が子供にとって少しでも楽しい時間になるよう工夫願いたい。</p>
<p>☆ 清掃指導 ・正しい清掃の仕方を身に付ける。 ・黙って働くことを通して学校をきれいにし、大切に使うという心を育む。 ・師弟同行に努める。</p> <p>【学校説明】 コロナ禍のため、むしろいつもの年よりも黙って清掃をすることができた。また、感染予防を意識し、より清掃をすることができた。一方、一部掃除用具の管理、修繕が行き届かなかった。</p> <p>【次年度の改善策】 黙って掃除を行う黙動掃除を励行している。次年度も行い、校内美化に努めていく。環境担当を中心に、掃除用具の管理・修繕を行い、用具の正しい使い方を指導する。</p>	3	3	<p>・師弟同行での清掃は、子供の成長に有難い取り組みだ。 ・常に学校内が清潔に保たれている。 ・清掃指導で何か工夫していることはあるか。</p>
<p>☆ 保健指導 自分の身体に関心をもち、心身共に健康な身体をつくる。 ・規則正しい生活をする。 ・外で元気に遊ぶ。 ・身体・衣類の清潔に努める。 ・身体と心のバランスについて学ぶ。</p> <p>【学校説明】 コロナ感染予防のため、手洗い、消毒を呼びかけ、よく励行できた。インフルエンザの欠席はなく、風邪症状による欠席者も例年に比べ少なかった。</p> <p>【次年度の改善策】 コロナ対応のため、体温測定器を玄関に2台設置し、児童の検温を徹底する。</p>	3	4	<p>・コロナ禍の1年、クラスターも起こさず乗り切ったことは称賛に値する。学校からの、数々のお便りも拝見したが、先生方の細やかな指導の賜物であり、4としたい。 ・学校だより等から保健指導が子供たちに行き届いていることが分かる。体調を崩したり欠席したりする子供が少なかったことも評価できる。 ・学校全体での取り組みが評価される。</p>
<p>☆ 特別活動 楽しい学校を主体的につくる。 ・児童の取り組みを通して、挨拶・返事を徹底する。 ・「ありがとう」や「思いやり」の気持ちを育てる。 ・クラス、学校全体の団結力を高めることで豊かな人間関係をつくる。</p> <p>【学校説明】 コロナ禍の中で学校行事、児童会活動、クラブ活動等、活動の制約を受けることが多かった。しかし、制約の中で児童会や6年生を中心に学校生活がより楽しめるよう、校内スタンブラリーや宝探しなどを行うことができた。また、児童会や学年で挨拶運動を自主的に行うことができた。</p> <p>【次年度の改善策】 コロナ禍のため、来年度も児童集会を3学年ずつ2部に分けて行う。また、全校一斉の仲よし活動も密にならない活動を工夫して行う。来年度も児童のアイデアを生かしたものを考えたい。</p>	4	4	<p>・制約の多い中、主体的に活動できるよう計画をたて実践できたことは、子供にとり有難い。先生方の御苦勞に感謝。 ・活動が制限される中、子供の主体性を生かそうと様々な工夫をすることができたことはよかったと思う。 ・校外からの訪問者に対しても挨拶がしっかりとできていた。 ・児童会や各委員会の活動内容について見直した点はあるか。</p>

3 組織・運営に関すること

組織を生かし学校運営を一層機能化、効率化させる。		自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
運営組織	<p>☆ 重点目標達成のために組織的な運営を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主任が3部を統括する。 ・生徒指導部の3指導部が重点目標達成のためのPDCAを行う。 <p>【学校説明】 コロナ対策を生徒指導主任が中心となりまとめたのはとてもよかった。</p> <p>【次年度の改善策】 生徒指導主任と3指導部主任と連絡を密に取り合い、本校における問題点等について把握する。必要に応じて部会を設けて、議論をし、経営推進部に提案し、学校改善に努める。今後も引き続き、コロナ禍における学校の対応を定期的に見直し、職員や児童に共通理解を図れるように指導を促すようにする。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主任が3部を統括する現行組織か、3部の長の上に統括を置く形が機動的か、現状を見ていないので、提案もできないが・・・ ・校長のリーダーシップの下、生徒指導主任が3部を統括できたのではないかとと思う。
	<p>☆ 各分掌の長がよりリーダーシップを発揮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分掌の長がリーダーシップを発揮し効率的に運営を行う。 <p>【学校説明】 各指導部の長がリーダーシップを発揮して取り組むことができた。行事等で一部管理職と指導部の長との意思統一がなされなかったところがあった。</p> <p>【次年度の改善策】 今年に引き続き、計画的に運営が行えているか適宜見直しをする。今年の反省を生かして改善すべき内容は改善し、現行どおりの内容は現行どおり行い、話し合いの時間の持ち方にメリハリをつける。児童の対応(コロナ等)で何か問題点があれば、主任者会で話し合いをして、早急に対応を検討する。行事等で管理職と指導部長と予め意思を疎通しておく。</p>	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を見ていないので、提案もできないが・・・と上に書いたが、管理職と指導部長の意思統一に少しでも課題があるようであれば、ジョイントとなるポジションが必要かもしれない。 ・各指導部が互いに連携しながら取り組んでいる様子が見える。
	<p>☆ 会議の効率化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃から教員同士で情報を交換し共通理解を図ることを心掛け、提案するときは綿密な計画案を作成することで職員会議、運営委員会の回数を減らす。 <p>【学校説明】 必要な連絡等は職員打合せで行い、共通理解することができた。職員会議、運営委員会等の会議の数は減少した。学年会の時間がなかなか取れなかった。</p> <p>【次年度の改善策】 職員会議をなくし、運営委員会を必要に応じて行ったため、大幅に会議は減ったが問題はなかった(年間を通して1、2回程度)。来年度も、月に2、3回の職員打合せで職員全体に伝達をして意思統一を図っていく。今後は1人1台iPadが導入され、ペーパーレス化を進める予定である。資料を見れば分かるようにするなど、伝達をスムーズにして効率化を図るようにする。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・「効率的な会議」「学年会の時間確保」は、どの学校の課題でもある。掲示による意思疎通や、連絡ノートの活用等、工夫を共有できればと思う。 ・会議を効率的に行おうと努力していることがうかがえる。 ・運営委員会等の会議を減らすことで支障は出なかったか。
研 修	<p>☆ 研究主題「自ら学び、共に追究する子の育成」をめざし組織的な研究を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究推進部が研究の方向性を出し研究全体の推進役を担う。 ・研究教科部が授業研究の推進役になる。 ・令和3年1月に授業研究発表会を行う。 <p>【学校説明】 研究主題や授業研究会開催のために計画的に推進する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため、年度当初予定していた内容の研修ができなかった。しかし、全教員の協力で可能な限り研修を深めることはできた。授業研究会は令和4年1月に延期となった。</p> <p>【次年度の改善策】 コロナの感染状況に応じつつ、協働的な学びやICTを活用した授業を行い研究主題にせまっていきたい。</p>	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の自己評価が3となっているが、コロナ禍、授業研究会の延期や大学との共同研究の不足は致し方なく、それでもこの現状の中、先生方は、オンライン授業の構築や工など等、新たな学びに力を尽くしたと思うので、4としたい。
	<p>☆ 教育学部と共同で研究を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究教科部が担当の大学教員と共に研究を行う。 <p>【学校説明】 大学にも新型コロナウイルス感染拡大の影響があり、年度当初は助言講師の先生方とお会いできない状態であった。その後は、コロナ対策で助言講師の先生方も忙しかったと思うが、小学校の研修の指導にも協力していただいた。</p> <p>【次年度の改善策】 令和4年1月に研究発表会があるので、それに向けて大学の先生の指導を受け授業づくりを行っていただきたい。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・上記同様に思うが、共同研究は、相手方のあることなので、自己評価の3をそのままとした。上記同様、制限のある中、先生方は力を尽くされたことと思う。 ・大学との連携は極小の何よりの強みである。今後の研修の充実を期待したい。 ・教育学部との共同研究について公開しアピールした方がいい。
特別支援教育	<p>☆ 特別支援教育の組織化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する児童を掌握し支援計画をたてる。 ・特別支援教育支援員を配置し個別支援の体制を作る。 ・相談窓口を作る。 <p>☆ 専門性能力の向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携し大学教員による指導を受け専門性を高める。 ・必要に応じて、静岡市特別支援教育センター等、外部機関に相談する。 <p>【学校説明】 特別支援教育の窓口を一本化してよかった。支援員がよくついてくれ助かった。専門性を高めるために大学の先生の話をお聞きしたかった。</p> <p>【次年度の改善策】 特別支援の要請や大学の協力、その他相談事項などは教頭に早めに相談する。そこから特別支援コーディネーターやカウンセラー、特別支援員などと連携を図り、対応する。年間3回の生徒指導職員会議(S職)で、職員全員が児童の実態を把握し、よりよい成長を支援できるよう共通理解を図る場を設ける。</p>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・具体を拝見しておらず、申し訳ないが、学校説明を伺う限り、4でもよいのではないかとと思うが・・・ ・特別支援教育の窓口を一本化することは組織的に取り組む上でとても大切なことだと思う。
志の高い教員	<p>☆ 志を高くもち、自己研鑽に励んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共感的な心と笑顔にあふれる教員 ・わかる授業、楽しい授業のできる教員 ・強い信念と謙虚さをもった教員 ・感性、専門性を磨き常に進歩する教員 ・高い倫理観と高潔な精神をもった教員 <p>【学校説明】 コロナ禍の中、前向きにZoomやユーチューブ配信に取り組むことができた。</p> <p>【次年度の改善策】 コロナ禍が続く中で、児童が健やかに育つ環境づくりを心がけて提供できるようにする。また、児童のみならず、教員も「三方よし」を心がけたり、よさやがんばりを認め合ったりして、志を高くもてる人間関係づくりや組織づくりを行うようにする。</p>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、オンライン授業や配信に取り組みされた先生方に敬意を表する。具体を拝見しておらず、5がつけられず残念だ。次年度に向け、ユーチューブ配信等、セキュリティが許せば、評価委員にも配信いただければ、学校の様子がより一層わかるかと思う。 ・市内公立学校でなかなかできなかったオンライン授業に取り組んだ教員は高い志をもっていると感じる。 ・教員の前向きな姿勢が評価される。

4 特色ある教育に関すること

特色ある教育（英語、オーケストラ、情報、書道）を行い成果をあげる。		自己評価	学校関係者評価	学校関係者委員会の意見
英語	<p>☆ 英語に浸り、英語を楽しく使いながら、聞く、話す、読む、書く力をバランスよく各学年に応じ身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月ごとのテーマに基づいたコミュニケーション活動。 ・フォニックスを取り入れた文字と音の学習。 ・イギリスの絵本を使ったリーディング。 <p>【学校説明】 コロナ感染予防のためマスクをつけて授業を行うところであるが、発音をしっかりとさせるため教師はフェイスシールドを使用し、その前にパーテーションを置いて行った。グループ活動は一部避けた。例年行っているオーストラリアへの英語研修と6年生のプリティッシュヒルズでの研修は中止になった。</p> <p>【次年度の改善策】 英語に長けた日本人教師とネイティブ教師によるティームティーチングで子供たちが英語を楽しく学んでいけるようにしていく。英語教科主任や学級担任は英語科からの要請に積極的に協力し授業を支援していく。</p>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明の「英語研修やプリティッシュヒルズ研修が中止になったこと」から、自己評価の4は、通常授業の充実を示しているものと思われる。海外との交流研修が行われていれば、5がつくような充実だったのではないかと推察される。通常授業は、何より大切なところでこの充実が図られたことは大きな評価だ。 ・発音指導で口を見せるためフェイスシールドを使用するなど柔軟に対応できたことがよかった。 ・オーストラリアの海外研修とプリティッシュヒルズへの研修はなくなったがネイティブの先生を中心に英語にふれる機会が多い。
オーケストラ	<p>☆ 感動するしなやかな心を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた演奏技術を身に付け、合奏する楽しさを味わう。 ・オーケストラ学習が、児童同士の良好な人間関係づくりに寄与する。 <p>【学校説明】 4月5月と休校になり6月スタートであった。また、感染予防のため制約が多かったが、子供たちは集中して行い、例年どおり12月に発表会をすることができてよかった。</p> <p>【次年度の改善策】 「めざす子ども像」の2つめの目標を「互いの楽器の演奏をききながら取り組むことで、仲間と協力する力を高める。」に変更する。 1つの目標に向かって全員で取り組む過程を重視していく。</p>	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・12月の発表会にも何えず残念だったが、「例年どおり」という学校説明から、充実した活動が見て取れる。 ・他に類を見ない特色ある教育活動だと思う。コロナ禍にあっても発表会を実施できたことは意義深い。 ・とても大変だったと思うが発表会ができてとてもよかった。 ・コロナ禍にもかかわらず例年どおり12月の発表会が実施できたことはすばらしい。
情報	<p>☆ 各教科等で活用できる情報活用技術等を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた情報活用技術、情報倫理、プレゼンテーション能力を身に付ける。 ・ミニロボやマイクロビット等を使用してプログラミング教育を行う。 <p>【学校説明】 コロナ対応のため、1時間ごとコンピュータやマウスなど消毒を行った。6月からの授業であったが、子供たちは意欲的に学び計画どおりできた。</p> <p>【次年度の改善策】 ギガスクール構想により、全児童にiPadが配付される。このことと連携した情報教育を行う。</p>	5	5	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータやマウスの消毒など、常にはない御苦労に頭が下がる。一方、このコロナ禍、情報教育の重要性を実感している子供や親も多くいることと思う。そこに応え、成果をあげられたことは、5の評価にふさわしいと思う。 ・コロナ禍の中、計画どおり情報教育を展開できたことは大いに評価したい。
書道	<p>☆ 書写で日本語の美しさに触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年に応じた書写技術を身に付け、日本文化の素晴らしさを体得することができる。 <p>【学校説明】 コロナ対策として密を避けるため、筆を水洗い場で洗うのではなくペットボトルを使用し各自の席で行わせることで、予定どおり授業を行うことができた。子供の姿勢や書く字に授業の成果が出ている。</p> <p>【次年度の改善策】 全学年とも学習指導要領の「書写」の内容を系統的に学んでおり、中学年から書道的内容も学習する。専科教員による本校の特色ある教育として「書写・書道教育」として行う。</p>	5	5	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響を受けにくく個の学びが重要視される書写だが、筆洗いの工夫等、御苦労があつての成果と思う。単なる書写技術にとどまらず、日本文化の体得、日本語の美しさを視野に入れた指導に共感する。 ・令和の今、書写に力を注いでいること自体すばらしい。ペットボトルで筆を洗うというアイデアもすごい。 ・工夫が成果につながっている。